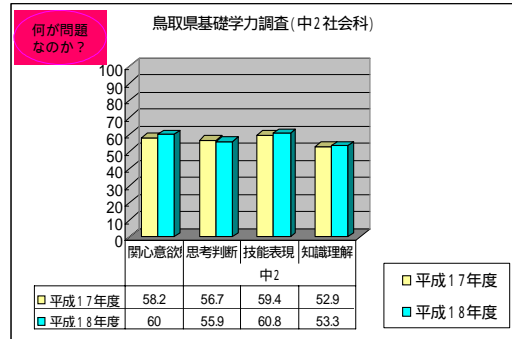


1 研究テーマ 『思考力を向上させる社会科の教材開発』

2 はじめに

鳥取県の中2社会科教育の課題のひとつは、思考力・判断力の向上である。そこで、本研究では思考力を向上させる社会科の教材を開発し、様々な視点から分析する。そして、思考力を高める教材構成のポイントを明らかにし、再構成した教材を教授書試案の形で提示する。

鳥取県中学校社会科教育の現状と課題 鳥取県教育委員会HPより



3 研究の目的

楽しく学べ、わかりやすく、生徒の身近な事例から考えることができ、思考力・判断力を向上させる教材を開発する。

特に思考力に注目し、思考力を向上させる教材のポイントを明らかにする。

開発した教材を全国に発信し、様々な角度から複数の視点で分析・検証し、教材を再構成する。

開発した教材を、追試可能な教授書試案の形で提示し、教材の共有化を図る。

4 研究の内容

(1) 鳥取県の中2社会科教育の現状と課題

鳥取県基礎学力調査及び教科リーダー研修(中学校社会・高等学校公民)からまとめた、鳥取県社会科教育の主な現状と課題は、次のとおりである。

《社会科授業の現状》

小学校では楽しくわかりやすい授業だが、中学校では授業がわからなくなり、楽しくない。

児童・生徒の関心・意欲は高いが、思考力・判断力は他の観点に比べ低い傾向がある。

中・高では知識・理解が低くなっている。授業を変えていく必要がある。

《社会科授業の課題》

生徒の身近な事例(ネタ)から教材を構成し、知識・理解の力を向上させること。

楽しく学び、同時に、思考力・判断力が向上する授業づくり・教材開発。

(2) 思考力を高める教材のポイント

最新の社会科教育の研究成果を踏まえ、本研究で明らかにした思考力を高める教材のポイントは次のとおりである。

生徒の身近な事例から社会的事象の背後に迫り、思考力・判断力を高める教材を構成する。

複数の見方・考え方で教材にアプローチし、総合的に思考・判断できるよう教材を構成する。

教師が「背後を見る力・見えない関係を見る力」を身に付け、判断する観点から教材を構成する。

(3) 開発した教材の構想及び構造

《環境問題の教材開発》中学校社会科公民的分野

トラック輸送はなぜ減らない？～地球温暖化と日本の経済システム～

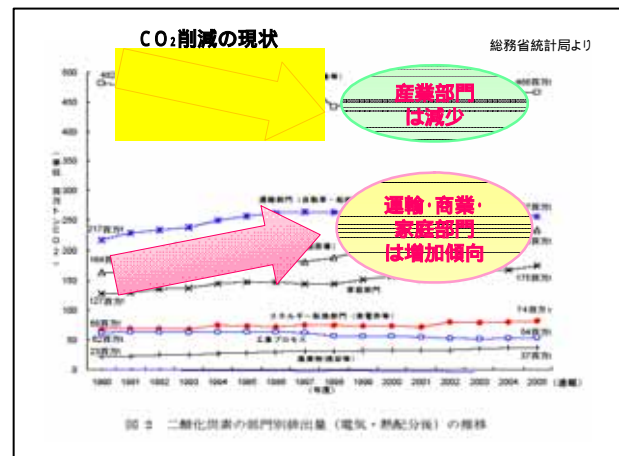
《教材の構想及び構造》

- 6%のCO₂削減は、日本の重要な達成目標である。しかし現状は、右図の通りである。

産業界では、様々なCO₂削減の対策を行っている。例えばトヨタは、愛知～岩手間の部品輸送にトヨタ専用貨物列車を利用している。

行政では、東京都の交通需要マネジメントなど全国でCO₂排出削減の取り組みが行われている。このような取り組みにもかかわらず、運輸部門のCO₂は増加している。それはなぜなのか？

授業では、日本の温暖化効果ガス削減対策及び欧米諸国の対策について考える。欧米諸国の環境対策と比較しながら、地球温暖化問題の背後にある日本の政治・経済・社会のシステムに迫っていく。



(4) 開発した教材における、思考力・判断力を高める工夫

トラック、宅配便など生徒の身近な事例を教材化し、環境問題の背後にある経済システムの問題まで切り込み、思考・判断することができた。

日本だけでなく、欧米諸国の環境問題や環境対策を教材化することで、多面的・多角的に思考することができた。また、経済だけでなく、都市計画や交通の視点からも環境問題に迫ることができた。

十分ではないが、思考力・判断力を向上させるための視点から教材を構造化することができた。

5 研究のまとめと今後の課題

研究のまとめ

今回作成した教材は、思考力を高める教材としては一定の効果を持つことが、生徒の感想から確認することができた。また、身近な事例から環境問題に切り込み、背後にある流通や経済システムについて考えることのできる教材としても有効であった。本実践では、最新の社会科教育研究の成果を踏まえ、思考力を向上させる教材構成のポイントを明らかにした。そして、思考力・判断力向上の視点から教材を再構成し、教授書試案の形で提示することができた。

今後の課題

- ・思考力・判断力の捉え方を、より精密に研究し、明らかにしていくこと。
- ・経済の面だけでなく、政策や法律など複数の見方・考え方により思考・判断できる教材を開発する。
- ・作成した教材構成に評価を組み込み、学習過程を再構成していくこと。
- ・ICタグやバイオ・エタノールなど、身近で最新の社会情勢のネタを教材化していくこと。